

塩釜二中

防災意識高める取り組み



これがイチオシ

特技を発表 たたえ合う

塩釜第二中学校では、自分の特技や頑張っていることを全校生徒の前で発表する「自己披露」という時間があります。お互いの良さを認め合い、特技や考えを伝えることで、心のつながりを大切にした集団をつくることを目的です。

生徒のほかに、先生や家族、卒業生も出場し、歌やダンス、コントなどに挑戦。見ている人は、ペンライトを振ったり、手拍子したりします。

お互いの個性を尊重し合い、自分を表現し、挑戦できる学校です。

学校名 塩釜市立第二中学校
所在地 塩釜市楓町2の10の1
創立 1947年
電話 022(362)1431
校長 田原 満
生徒 339人

塩釜第二中学校では防災学習に全校生徒で取り組んでいます。東日本大震災発生から11年の3月11日には、パネルディスカッションを行いました。震災時に塩釜二中で働いていた先生をお呼びして、被災状況や未来への教訓をお話していただきました。6月の塩釜市総合防災訓練では、災害時に力を発揮できるように学習と活動に取り組みました。1年生がロープワークや新聞紙スリッパ作り、2年生が心臓マッサージや段ボールベッド作り、3

年生が市役所の方と避難所設置や地域の方から講話をいただきました。11月には、防災発表会を塩釜ガス体育館で開催しました。防災を学ぶ道徳や理科の授業と、これまでの防災学習についてまとめたポスターセッションを実施しました。東北大の先生や塩釜市教育長の先生、生徒代表と担当の先生で討論。地域と連携した備えの大切さを改めて感じました。これからも防災への意識を一人一人が高めるために、積極的に取り組んでいきます。



防災学習に取り組む生徒たち。①パネルディスカッション②ポスターセッション③道徳の防災授業④理科の防災授業の様子

編集委員 大森強平、佐藤志奈、森凜之輔、佐藤優依、近藤恵斗、大久保紗良(2年)

災害時での行動を学ぶ

わが校わがまち スクール通信



今回は 石森小(登米市) 住吉台中(仙台市)

人権福祉への理解深める

高屋小



これがイチオシ

学年を超えて仲良く活動

高屋小学校は、全校児童58人と小規模な学校ですが、仲の良さはどこにも負けません。みんなの顔と名前を知っているのは当たり前。休み時間や放課後には、学年を超えて全校で遊ぶこともあります。

また、四つのチームに分かれて縦割り活動にも取り組んでいます。運動会も、そのチームで競います。みんなで協力して、サツマイモを育てたり、校内の清掃活動をしたりします。

縦割り活動が、高屋小の仲の良さの秘密なのかもしれません。

学校名 亘理町立高屋小学校
所在地 亘理町逢隈高屋保戸原54の2
創立 1881年
電話 0223(34)1756
校長 軽部 敦子
児童 58人

手話を習い合唱で披露

高屋小学校では、「げんき・えがお・まなび」いっぱい、自ら歩む子どもへの教育目標の下、人権福祉教育に力を入れています。宮城県立聴覚支援学校(仙台市)と1984〜2015年の31年間、交流学習を続けていました。交流は途絶えましたが、手話を学ぶことは続けています。学芸会では、3〜5年生と一緒に手話付きの合唱「ともだちになるために」を披露することが伝統です。総合的な学習の時間では、3年生が白杖歩行

や車いす利用で、目の不自由な方の行動や生活を体験します。4年生は手話教室で、耳の不自由な方のコミュニケーションを学びます。5年生は老人福祉施設を訪問し、お年寄りとのふれあい、交流します。コロナ禍のため訪問が中止となって寂しいです。さらに5、6年生が、障害者スポーツ体験と盲導犬学習に、隔年で取り組んでいます。活動をを通して、障害者への理解が深まりました。思いやりの心を大切に、支え合って生きていく社会にしたいです。



手話付きで「ともだちになるために」を歌う子どもたち

編集委員 間弓瑠泉、菅野大翔(6年) 引地晴大、斎藤渚(4年) 指導教員 渡部紀子、植松知恵